

X 進行管理(点検評価) シート

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(1)確かな学力の育成			担当課	担当課評価
細 施 策	①学力向上対策の推進			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上検討委員会において、本市の児童生徒の学力の現状と課題を把握しながら新学習指導要領への対応を図ります。 ・児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上への具体的な取組を指導し、学力向上を推進していきます。 				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学識経験者、保護者・地域の代表、教育関係者で組織された学力向上検討委員会を3回開催しました。 ・これまでの取組から明らかになった課題解決に向け、家庭学習の習慣化及び生活リズムの確立に向けた啓発資料を作成しました。 ・新たな学力向上プランの作成に着手しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	授業以外で1時間以上勉強する児童の割合(小学校5年生)(%)	37	40	41	
	授業以外で1時間以上勉強する生徒の割合(中学校2年生)(%)	51	53	55	
評価の理由	PTA連合会と連携し、学力向上アクションプランの周知が図られるようにしました。これにより、各学校における学力向上アクションプランの具体的な活用により、学校や家庭の意識改革が図られ、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上プラン策定の趣旨を踏まえた具体的な取組を実施してまいります。 ・児童生徒の学びの基盤となる家庭学習の習慣化を推進していきます。 				

施策の柱	(1)確かな学力の育成			担当課	担当課評価
細 施 策	②市独自の少人数学級編制の推進 (平成25年度より、各学校の課題に応じた学校支援事業の推進として実施)			学校管理課	B
施策の内容	積極的な生徒指導を推進し、子どもたちの心の教育・学力向上・いじめの未然防止・少人数学級編制等、各学校におけるさまざまな課題を解決するため、市費による教員(オールマイティーチャー)を配置します。(オールマイティーチャーの配置は平成25年度から)				
平成25年度実績	校長の創意を生かした企画書に基づき、各学校の課題に応じて、市内の中学校10校に11人の市費による教員(国語1人、社会2人、数学1人、理科2人、英語1人、美術1人、保健体育3人)を配置しました。これにより、子どもたち一人ひとりに応じたきめ細かな教育活動を推進することができました。				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	臨時講師配置状況(人)	9	7	11	
	対象校に配置した率(%)	90	70	100	
評価の理由	各学校の課題に即した個に応じたきめ細かな指導ができ、不登校生徒数の減少、いじめの発生件数の減少、学力の向上等の成果を得たことなど、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	配置した学校での効果を検証しながら、必要とする学校に対し各課題に応じて教員を配置し、生徒指導体制の充実や学力向上に向け、子どもたち一人ひとりに応じたきめ細かな教育活動を推進していきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(1) 確かな学力の育成			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①学力向上対策の推進	教育指導課	B	B	B
	②市独自の少人数学級編制の推進(平成25年度より、各学校の課題に応じた学校支援事業の推進として実施)	学校管理課	B		
学識経験者等	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上アクションプランについては、各学校、各家庭にまで浸透するように周知を図ってほしい。 ・各学校の課題に応じた臨時講師の加配は、学校の支援に役立つ取組であるため、予算の制約もあると思うが一層の拡大を図り、各学校の支援をお願いしたい。 ・各学校長の経営意欲を高めるため、校長の企画提案に対する予算確保について検討をお願いしたい。 				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①学力（読む・書く・計算）向上の推進			教育指導課	B
施策の内容	学習指導要領に基づき、読む・書く・計算の観点を中心に、子どもたちの学力の土台づくりを進め、小・中学校の連携を踏まえ家庭の協力を得た学力向上の推進を図ります。				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上研修会を実施し、結果分析の仕方や研究資料の活用方法等について研修を進め、基礎的・基本的な学力内容を定着させました。 ・検証結果の分析プログラムを全小・中学校に配布し、各学校が自校の分析結果をもとに対応策を検討できるようにしました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	小学校「読む・書く」、「計算」達成率90%以上の項目(各学年2項目×6学年)	11項目／12項目	12項目／12項目	12項目／12項目	
	中学校「読む・書く」、「計算」達成率90%以上の項目(各学年2項目×3学年)	4項目／6項目	4項目／6項目	4項目／6項目	
評価の理由	各学校の学力向上策の中に「教育に関する3つの達成目標」を位置付けることで、多くの項目で「読む・書く・計算」の達成率が90%を上回るなど、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	「読む・書く・計算」等の基礎的・基本的な学習内容を活用する場を意図的・計画的にもたせて、学習内容の定着を図るなど指導法の工夫改善を図ります。				

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	②規律ある態度の育成			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校における基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けさせます。 ・学校が家庭や地域と連携を密にし、思いやりや感謝の心、公共心、善悪を判断する力など、豊かな心を育みます。 				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各小・中学校においては校種間の連携を通して、学習の仕方や生活のきまり等について9年間を見通した生活習慣、学習習慣の定着に向けた取組を進めています。 ・「朝のあいさつ運動」についても多くの学校で定着が図られ、自校でのほりを作る等の積極的な取組を進めています。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	小学校・規律ある態度達成率80%以上の項目(各学年12項目×6学年)	65項目／72項目	69項目／72項目	69項目／72項目	
	中学校・規律ある態度達成率80%以上の項目(各学年12項目×3学年)	32項目／36項目	33項目／36項目	34項目／36項目	
評価の理由	児童生徒質問紙調査の結果、達成率が80%以上の項目数が増加しており、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	規律ある授業が学力の向上に関連があることを踏まえ、学校指導訪問等の機会を通して、各校の実態に即した取組を支援してまいります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③体力向上の推進			教育指導課	B
施策の内容	豊かな人間性や生きる力の重要な要素である基礎的な体力を向上させるために、家庭や地域との連携を図りながら、児童生徒の発達段階に応じた効果的な体力向上の取組を充実します。				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度川越市児童生徒体力向上推進委員会で、体力向上全体研修会や授業研究会を実施し、冊子「じゃんぷ」「川越市小・中学校新体力テスト一覧」を発行しました。 市内各学校の体力向上への取組をまとめ冊子として配布することで、市全体の体力向上に結び付くようにしました。 運動の特性に触れる体育・保健体育の授業の推進にあわせ、小学校の体力向上に関する取組(朝マラソンや休み時間を使った運動)や中学校の部活動が充実しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	前年度より結果のよい種目(小学校)	上体起こし(男子)	反復横とび(男子) シャトルラン、50m走(女子)	上体起こし(男女) シャトルラン(男女)	
	前年度より結果のよい種目(中学校)	50m走(男女) ボール投げ(男子)	上体起こし(男女)、長座体前屈(男女)、反復横とび(男女)	長座体前屈(女子) ボール投げ(女子)	
評価の理由	運動する楽しさを重視した授業や朝マラソン等体力向上に係る取組が各学校の工夫のもとに展開されており、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	体育や保健体育の授業における運動量を確保するとともに、朝会や休み時間を活用した業前・業間運動や体づくり運動の実施、ラジオ体操の推進等、家庭や地域で日頃からスポーツに親しむ習慣づくり等に取り組めます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①学力(読む・書く・計算)向上の推進	教育指導課	B	B	
	②規律ある態度の育成	教育指導課	B		
③体力向上の推進	教育指導課	B			
学識経験者意見等	規律ある態度の育成については、成果実績における達成状況も年々増加しており、大変好ましい傾向であるため、一層の充実を図ってほしい。				B

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(3)校種間連携の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①小学校・中学校連携の推進			学校管理課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 市内全小中学校を、9ブロックに分け、それぞれのブロックごとに小中学校間の連携を一層進めてまいります。 校長のリーダーシップのもと、教育委員会からも指導主事を配置するなどサポートをしながら、課題を明確にして各学校で行ってきた連携の取組の見直しや改善を図り、学校教育の一層の充実・活性化を図ります。 				
平成25年度実績	連携事業として、教員間では授業の参観及び研究協議が行われ、教育課程や人権教育などの合同研修会が実施されました。児童生徒間では、小6の部活動体験や1日体験入学が中学校で実施され、音楽会等学校行事での交流も図られました。また、児童生徒が地域の行事を通して、地域社会と交流し、思考力・判断力・コミュニケーション能力の伸長も図れました。				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	中学1年生不登校者数(人)	45	27	35	
	中学1年生全体に占める不登校者数の割合(%)	1.34	0.95	1.29	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> 中学1年生の不登校者数は、昨年度比で若干増加しました。 各校のまとめを見ると、特に成果を感じる取組は、連絡会・情報交換会(70%)、授業公開・研究協議(64%)、合同研修会(55%)で、昨年度より低い数値です。小中の系統を意図した学習指導、生徒指導等が徐々に行われるようになってきており、概ね順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	多くの学校で課題ととらえられているのは、時間と場の工夫・体制づくり(63%)で、今後、児童生徒間の新しい交流の場と時間を模索するとともに、各校の連携組織の体制見直しも視野に入れ、より系統性を意識した連携事業の推進をします。				

施策の柱	(3)校種間連携の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	②中学校・市立川越高等学校連携の推進			学校管理課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 中学校と市立高等学校が一層連携し、双方の円滑な交流や相互理解、授業改善や教員の指導力向上に向けた取組を図ります。 「第二次市立川越高等学校将来構想懇話会」の報告結果を基に、中高一貫教育について調査研究を進めます。 				
平成25年度実績	中・高の教職員が実際に相手の顔を見ながら交流を行うことにより、連携に対する機運が高まりました。また、高校教員による中学校への出前授業、高校での授業体験、生徒相互の部活動交流を実施しました。高校での授業体験や部活動交流では、高校生が中学生に対して教えるという機会を持つことができました。				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	教員・保護者間の交流活動件数(件)	23	16	15	
	生徒間の交流件数(件)	14	13	17	
評価の理由	高校への学校訪問や授業体験、生徒・保護者の学校説明会への参加、年間を通じた部活動の交流などの連携が推進されました。また、中学校の教員が高校を訪問し説明を受け、校内を見学する交流も行われ、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	各学校の特色を生かし、学習指導・生徒指導・進路指導に役立つよう、教職員の共通理解を深め、計画的に連携を推進します。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(3)校種間連携の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③幼稚園・保育園・小学校連携の推進			教育指導課	A
施策の内容	幼保小連絡懇談会を通して、幼稚園、保育園、小学校のそれぞれの役割の理解を深めるとともに、課題解決に向けた情報を共有するとともによりよい連携のあり方について話し合い、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図ります。				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小連絡懇談会を6会場で実施しました。 ・研究テーマを新たに「子どもの発達と学びの連続性をはぐくむ幼保小の連携」とし、更に視点を「コミュニケーション能力の育成」に絞り、課題解決に向けた情報を共有しました。 ・各会場での記録を冊子にまとめ、関係者に配布するとともに、公民館等に閲覧用として配布しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	参加園・校数	98	102	104	
	参加人数(人)	230	228	216	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小連絡懇談会に引き続き102の園・校が参加し、年間を通してテーマに基づき連携に取り組みました。 ・懇談会でのテーマをコミュニケーション能力の育成に絞ったことで話し合いが活性化し、小1プロブレム等の課題解決に向けた情報を共有するなど、順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	幼保小連絡懇談会の成果を各幼稚園・保育園・小学校へ周知し、今後も参加園・参加者の拡充を図り、幼保小の円滑な連携を図ります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(3)校種間連携の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①小学校・中学校連携の推進	学校管理課	B	B	
	②中学校・市立川越高等学校連携の推進	学校管理課	B		
③幼稚園・保育園・小学校連携の推進	教育指導課	A			
学識経験者意見等	本市の小中学校の連携は、ブロックごとに取り組んでいるため効率的で効果も上がっていることから、一層の推進を図ってもらいたい。				B

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4)生徒指導の充実				担当課	担当課評価	
細 施 策	①道徳教育の充実				教育指導課	B	
施策の内容	豊かな心を育む道徳教育の一層の充実と道徳的実践力の向上を、学校の教育活動全体で推進します。						
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進教師研修会を年2回実施しました。 ・学校訪問で公開授業を実施し、授業や分科会の協議を通して指導力の向上を図りました。 						
成果実績	項目名(単位)	H23		H24		H25	
	教育に関する3つの達成目標・規律ある態度「整理整頓・あいさつ・やさしい言葉づかい・集団の場での態度・清掃美化活動」達成率80%以上の項目(各学年5項目)	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
		29/30項目	14/15項目	29/30項目	14/15項目	29/30項目	15/15項目
評価の理由	道徳教育推進教師研修会や学校訪問等を通して、指導力の向上を図ることができ、概ね順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	道徳教育推進教師を中心とした校内組織を整備し、家庭・地域との連携した取組や道徳授業の充実を推進します。						

施策の柱	(4)生徒指導の充実				担当課	担当課評価	
細 施 策	②いじめ・不登校対策の推進				教育指導課	B	
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校1年生で急増するいじめ・不登校問題の対応については、小中連携を中心とした校種間連携の中で取組を推進します。 ・いじめ・不登校対策検討委員会を通して、具体的な取組を推進します。 						
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ未然防止対策については、各学校の相談体制、校内いじめ対策委員会、アンケート実施、児童生徒の活動などの進ちよく状況を毎月確認して取り組みました。 ・小中連携を中心とした校種間連携の中で定期的に学校訪問を実施することができました。 ・いじめ・不登校対策検討委員会を組織し、いじめや不登校問題の防止に向けた「教育相談アンケート」や「いじめ対応マニュアル」を作成しました。 ・ネットパトロール及びいじめ相談電子窓口を通年で実施し、8件の対応を行いました。 						
指標及び説明	【指標】 中学校の不登校出現率			【説明】 市内全中学校の生徒数のうち不登校生徒数の割合			
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)
			H22	H23	H24	H25	H26
	%	3.33	2.63	2.59	2.17	1.97	2.75
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携の推進や不登校傾向の見られる児童生徒に対し早期対応に努めることで、不登校の出現率が目標値を下回り、概ね順調に進ちよくしています。 ・市立全小・中学校で「学校いじめ防止基本方針」を策定し、いじめ未然防止に向けた取組の方向性が定まり、いじめ問題の早期発見・早期対応が図られました。 						
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題の早期発見に向け、定期的に児童生徒アンケート及び保護者アンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応に万全を期してまいります。 ・川越市児童生徒連絡協議会と連携し、各学校の児童生徒が主体となったいじめ撲滅に向けた取組を推進してまいります。 ・「川越市いじめ防止基本方針」の策定に向け、関係各課と連携を図ってまいります。 						

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4)生徒指導の充実					担当課	担当課評価
細 施策	③教育相談の充実					教育センター分室 (リバーラ)	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 市内全中学校に配置している、さわやか相談員の活用を図り、不安や悩みを持つ生徒が相談しやすい教育相談体制を推進します。 スクールカウンセラーや教育センター分室(リバーラ)の臨床心理士など、専門的知識を有する人材を活用し、小学校の児童、保護者に対する教育相談体制の充実を図ります。 						
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 市内全中学校に1人ずつ配置したさわやか相談員が、小・中学生、その保護者等延べ10,685人の相談に対応しました。 週1回から2週間に1回の割合で配置されているスクールカウンセラーが生徒やその保護者への面接、教職員への助言など、併せて5,046回の相談を行いました。 						
指標及び説明	【指標】さわやか相談員がかかわりを持ち、解決した割合			【説明】市内全中学校に配置したさわやか相談員が受けた相談件数のうち解決した(相談が終了した)件数の割合			
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)
			H22	H23	H24	H25	H26
	%	66.8	82.9	84.0	84.2	86.6	75.0
評価の理由	さわやか相談員がいじめや不登校、学業や友人問題、家庭環境などの相談に応じ、解決した(相談が終了した)割合が目標値を上回る86.6%となり、順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	今後もさわやか相談員、スクールカウンセラーなどとの連携を深め、不安や悩みをもつ児童生徒やその保護者への教育相談体制の充実を図ります。						

施策の柱	(4)生徒指導の充実					担当課	担当課評価
細 施策	④関係機関との連携事業					教育指導課	A
施策の内容	課題解決のために、教育センター分室(リバーラ)、市内こども安全課、児童相談所、警察署等の関係機関と連携し、情報交換や対応策を検討します。						
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 教育センターといじめ・不登校対策検討委員会を合同で組織し、問題解決のために協力して取り組みました。 児童相談所とは児童虐待の問題に対して、こども安全課と情報を共有するなど連携して対応しました。 児童・生徒の問題行動等に対して、これまで以上に川越警察署生活安全課との連携を深め、学校の支援体制を整備しました。 スクールサポーターの配置を要請し、4校に配置されました。 学校・地域・警察関係者によるサポートチームが9校で組織されました。 						
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25			
	サポートチームの編成数(校)	6	8	9			
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会と川越警察署(生活安全課)の信頼関係を深め、児童生徒の問題等に対し教育委員会が各種調整を図ることで、学校と警察の連携がこれまで以上に円滑に進められ、順調に進ちよくしています。 関係機関等と積極的に連携し、迅速な対応が進められました。 						
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導に関する連携では、指導上配慮を要する児童生徒について事前に情報交換するなど、問題発生時のみの連携にならないようにします。 多様な生徒指導の問題への対応について、各学校の取組を集め指導の手立てを広めるなど、迅速に問題解決が図れるようにします。 各学校の実情に応じ、今後更に警察との連携を進め、学校と一体となった取組を行ってまいります。 						

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4)生徒指導の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	⑤いきいき登校サポートプランの推進			教育センター分室 (リベール)	A
施策の内容	市内小中学校における不登校問題の解消に向けて、大学生による不登校児童生徒支援事業の「いきいき登校サポートプラン」を更に推進し、学校、専門家、地域が連携し、一体となった取組を進めます。				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度は、19人の学生が、延べ320回の活動を行いました。 臨床心理士を週1日、年間45日、教育センター分室に配置し、特に配慮を要する難しいケースについてより専門的な対応を実施できました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	活動した学生 実人数(人)	13	11	19	
	活動回数 (回)	173	163	320	
評価の理由	活動した学生の人数および活動回数が大幅に増加しました。また、引きこもりなど難しいケースにおいても児童生徒との信頼関係をもとに対応し、不登校問題の解消に向けて順調に進ちょくしています。				
改善の方策等	関係の大学と連携し、大学生による不登校児童生徒支援を充実させるとともに、サポートプランを更に活用するよう各学校への呼びかけを強化します。臨床心理士による対応をより一層推進します。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4) 生徒指導の充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①道徳教育の充実	教育指導課	B	A	
	②いじめ・不登校対策の推進	教育指導課	B		
	③教育相談の充実	教育センター分室(リベール)	A		
	④関係機関との連携事業	教育指導課	A		
⑤いきいき登校サポートプランの推進	教育センター分室(リベール)	A			
学識経験者等意見	<ul style="list-style-type: none"> 中学校の不登校出現率は、指標の推移にみられるように年度を追って減少しており、目標値も既に十分達成していることから、目標値を再検討したうえで更なる成果が上がるように取組を進めてもらいたい。 インターネットに関連したいじめについては、川越市でもネットパトロール事業やいじめ電子相談窓口など対応しているようだが、一層の拡大、充実を図りながら、子どもたちが安全、安心に学校生活を送れるようにお願いしたい。 				A

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(5)進路指導・キャリア教育の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①地域・関係機関と連携した社会体験活動の充実			教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりを大切にされた進路指導・キャリア教育の一層の充実に努めます。 ・中学校では、地域にある事業所や公共施設での体験活動を通して川越市中学生社会体験事業の充実を図ります。 				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導・キャリア教育研修会を実施し、小学校のキャリア教育の実践発表を行いました。 ・川越市中学生社会体験を全校で実施し、終了後、今後の生活にどう生かすかについてのアンケート調査を実施し、結果を指導に活用しました。 ・川越市中学生社会体験実施協議会を開催し、関係団体との連携を図り事業を円滑に運営することができました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	協力事業所数(箇所)	828	798	795	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・全校が計画通りに社会体験事業を実施することができました。 ・事後のアンケート調査によると、「働くことの大切さや意味を考える機会となった」「仕事をするために協力する大切さが理解できた」「社会のきまりを守る大切さを理解できた」「働くことの厳しさ大変さを知ることができた」等の項目で、98%以上の生徒が肯定的な回答を示すなど、順調に進ちよくしています。また、事業所から「職員が仕事を基本から見つめ直す機会となり、大変メリットがある」「患者様が笑顔になる」等の意見が寄せられ、地域の中で本事業が円滑に浸透している様子が見られます。 				
改善の方策等	社会体験の事後指導の中で、体験を今後の生活に生かす視点を取り入れるようにしていきます。				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(5)進路指導・キャリア教育の充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
	①地域・関係機関と連携した社会体験活動の充実	教育指導課	細施策	施策の柱	
			A	A	
学識経験者等 意見	特になし				A

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(6)科学体験活動の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①科学わくわくラーニングプログラム事業の推進			教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校6年生を対象に、小学生科学体験事業を実施し、講演会、実験実習、科学施設の見学や体験活動の取組を充実します。 ・理科実験助手派遣事業、小・中・大学連携理科ふれあい事業を充実させ推進します。 				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生科学体験事業として、市内小学校6年生77人を対象に、1日目に講演会、2日目に実験・実習、3日目に日本科学未来館で体験学習を行いました。 ・理科実験助手派遣事業により、小学校においては9校に、中学校は希望校3校に理科実験助手を派遣しました。 ・小・中・大学連携理科ふれあい事業により、小学校9校・中学校4校が事業を実施しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	理科実験助手派遣事業派遣数(校)	9(小:6 中:3)	10(小:7 中:3)	12(小:9 中:3)	
	小・中・大学連携理科ふれあい事業(校)	17(小:13 中:4)	14(小:11 中:3)	13(小:9 中:4)	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・科学体験事業に参加した児童や小・中・大学連携理科ふれあい事業を実施した学校の児童生徒から、理科に対する興味・関心が高まったという感想が寄せられています。 ・理科実験助手事業もローテーションが進んでおり、科学体験活動は順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・科学体験事業や小・中・大学連携理科ふれあい事業において、大学や研究機関との連携を積極的に進め、理科に関する興味・関心を広げるようにします。 ・小学校に理科実験助手を計画的に派遣し、市内全校において教員の実験の準備や取組などのスキルを高められるようにします。 ・市内小学校1校を研究推進校として指定し、理科教育の振興を図るようにします。 				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(6)科学体験活動の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①科学わくわくラーニングプログラム事業の推進	教育指導課	A	A	
学識経験者意見等	科学わくわくラーニングプログラム事業は、大変良い取組であるため、できる限り多くの学校の児童生徒が参加できるよう工夫してもらいたい。				A

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(7)地域に開かれた特色ある学校づくりの推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①学校評議員制度の充実			学校管理課	B
施策の内容	学校は、評議員に学校の現状と課題について情報提供を行い、情報の共有化を図るとともに、保護者や地域住民から信頼される学校経営ができるよう学校評議員制度の充実を図ります。				
平成25年度実績	現状と課題に即し各学校が求めた意見に対し、学校評議員による積極的な意見交換が行われています。特に、各学校の学校評価において、学校評議員が学校関係者評価の構成員である割合が大きく、開かれた学校づくりに寄与していると考えられます。				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	学校評議員が学校関係者になっている学校	55/56	55/56	56/56	
	学校評価の公表率	56/56	56/56	56/56	
評価の理由	すべての市立学校で、学校評議員が学校関係者評価における評価者になっており、学校経営に関わる情報の共有化が図られています。学校は、保護者や地域住民等の意向を把握・反映するとともに、学校運営の状況等を周知しており、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	学校評議員会の意見を具体的に学校の教育活動等に反映し、計画的な自己評価及び結果の公表を行い、多様な意見を幅広く求めていくことで、学校評議員制度の更なる充実を図ります。				

施策の柱	(7)地域に開かれた特色ある学校づくりの推進			担当課	担当課評価
細 施 策	②地域人材活用事業の充実			学校管理課	B
施策の内容	小・中・特別支援学校が、特色ある学校づくりを推進していくため、多様な体験活動が展開できるように関係団体や地域の方々と連携し、地域人材活用事業の一層の充実を図ります。				
平成25年度実績	市立小中学校53校が、トータルで220回、40団体と個人併せて482人の地域人材からそれぞれの学校において必要な支援をいただきました。児童生徒は、地域人材との交流によって、豊かな体験を得るばかりでなく、表現力やコミュニケーション能力を伸ばすことができました。平成23年度実績に比べると実施回数はかなり少ないものの、予算内でよく活用されています。				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	活用回数(回)	635	205	220	
評価の理由	各学校からは地域人材活用に対する期待が高く、活用回数を増やしたい意向です。平成25年度は、学校の実態や地域人材の活動状況等に応じて適宜、活用の追加承認を行い、限られた予算の中で、一定の成果は上げられており、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	今後も、学校評議員及び日本語指導ボランティアに対する報償金の執行状況を的確に把握し、予算を適切に振り分け、地域人材の活用回数をできるだけ増やすことによって、更に各校の特色ある教育活動の充実を図ります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(7)地域に開かれた特色ある学校づくりの推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③日本語指導ボランティアの充実			学校管理課	B
施策の内容	各学校に在籍する外国籍の児童生徒のうち、特に日本語指導が必要とされる児童生徒に対して、日本語指導ボランティアの派遣を推進し、日本語指導、学校生活への適応指導の支援など、日本語指導ボランティアの充実を図ります。				
平成25年度実績	平成25年度は、市立小中学校23校に在籍する外国籍の児童生徒で日本語指導ボランティアの申請があった43人中、17校30人に対してボランティア13人を週1～2回派遣しました。派遣回数は延べ495回でした。				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	申請受付数(人)	27	37	43	
	日本語ボランティア派遣児童生徒数(人)	24	28	30	
評価の理由	日本語指導ボランティアを派遣することにより、該当児童生徒が学校でコミュニケーションをとる際の援助と指導ができました。また、授業補助や個別指導により、授業内容の理解を深めることができ、概ね順調に進ちよくしています。しかし、申請されたすべての児童生徒にはボランティアの派遣ができず、派遣回数も十分でないことが課題です。				
改善の方策等	ボランティアの人材確保のため、関係機関との連携を更に進めます。また、援助が必要な児童生徒に効率的な派遣ができるように努めます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(7) 地域に開かれた特色ある学校づくりの推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①学校評議員制度の充実	学校管理課	B	B	
	②地域人材活用事業の充実	学校管理課	B		
③日本語指導ボランティアの充実	学校管理課	B			
学識経験者等	日本語指導ボランティアの派遣については、要望される言語も幅広くなっており、人材を確保することが大変難しいと思うが、今後も要望が増えることが見込まれるため対応をお願いしたい。				

【方向性】 1 生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上					担当課	担当課評価
細 施 策	①経験・職能別研修の充実					教育センター	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の経験段階に応じて職務遂行に必要な知識・技能等の習得を図る経験者研修の充実を図ります。 ・教職員の職務に応じた知識・技能等の習得を図る職能別研修の充実を図ります。 						
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・経験段階に応じた研修として、初任者研修、5年経験者研修、10年経験者研修、20年経験者研修等を計画的に実施しました。 ・職能別研修として、主幹教諭、教務主任、学校事務職員、栄養教諭・学校栄養職員、初任者研修拠点校指導教員、学校保健・道徳教育・特別支援教育・教育相談・学校図書館教育・情報教育・進路指導キャリア教育の各担当者、非常勤職員等を対象とした研修会を開催しました。 						
指標及び説明	【指標】 教職員の研修参加回数			【説明】 教職員一人が1年間に研修に参加する回数			
指標の推移	単位	現在値 (H21)	実 績 値				目標値 (H27)
	回	4.1	H22 4.4	H23 5.1	H24 5.2	H25 4.9	H26 /
評価の理由	研修体系と研修内容の見直しを行い、研修の充実を図りました。研修回数の実績値は目標値を上回っており、順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	今後も経験者研修等、教職員のライフステージに応じた研修を重視し、経験に応じた資質・能力の向上を図っていきます。また、指導者や講師等についても今日的な教育課題に即した研修となるよう質の向上に努めます。						

施策の柱	(8)教職員の資質向上					担当課	担当課評価
細 施 策	②管理職等研修の充実					学校管理課	B
施策の内容	教育に対する理念や識見を高め、管理職としてのリーダーシップを発揮できるよう管理職等研修の充実を図ります。						
平成25年度実績	校長、教頭を対象とした研修会を実施しました(校長研修会、教頭研修会、一人ひとり大切に、信頼関係に立つ教育推進教頭研修会等)。						
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25			
	研修会の実施回数 (回)	21	20	19			
評価の理由	学校訪問や人事評価における管理職ヒアリング等において、各学校の管理職が、学校経営・学校運営に関する理解を深め、地域社会から信頼される学校づくりを目指し、リーダーシップを発揮している様子を確認することができ、概ね順調に進ちよくしています。校長・教頭だけでなく管理職候補者についても学校運営等に関する見識を高め、学校の組織力をより向上させていくことが今後の課題です。						
改善の方策等	今後は、各研修会の内容の改善を図るとともに、校長を助け補佐する教頭や管理職候補者を対象とした研修会の充実を図り、学校組織のマネジメント力をより強化していきます。						

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上			担当課	担当課評価
細 施 策	③奨励研修の充実			教育センター	B
施策の内容	教職員の資質向上を図るために、教職員自らが希望して参加できる奨励研修の充実を図ります。				
平成25年度実績	1年間で奨励研修に参加した教職員の人数は、延べ867人でした。研修内容の充実を図るため、大学教授をはじめ各分野における第一線の講師陣を迎え、より専門性の高い研修会を実施しました。				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	講座数(回)	37	35	35	
	参加延べ人数(人)	914	890	867	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のニーズや今日的な課題に即した内容の研修会を実施し、概ね順調に進ちよくしています。参加延べ人数の減少は、教職員数が減少したためです。研修全体で見ると、教職員一人あたりの年間研修参加回数は増加しています。 ・参加者の感想等から、研修会に対する教職員の意欲や意識の向上が見られました。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・川越市教職員のより一層の資質向上のため、研修体系の整備を図り、研修内容・研修方法の工夫改善に向けた見直しを継続的に進めます。 ・積極的な研修参加について、啓発を行います。 				

施策の柱	(8)教職員の資質向上			担当課	担当課評価
細 施 策	④かわごえ異業種体験研修事業の推進			学校管理課	B
施策の内容	教員以外の民間の職業を直接体験することにより、再度教育職を見直し、多面的で柔軟な教育指導ができる教員の育成を目指し、かわごえ異業種体験研修の推進を図ります。				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度は9人の教員が異業種体験研修を行い、平成15年度から延べ104人が体験しています。 ・どの教員も、学校での児童生徒及び保護者との対し方、組織としての学校のあり方、学級経営などを新たな視点で見つめ直し、体験から得たスキルを今後の教育活動に生かそうとする意欲を得ています。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	体験教員数(人)	10	9	9	
評価の理由	民間企業での職業体験は、教員がこれまでの自分の教育指導を見直し、学校及び学校教育のあり方を考え直す良い機会となっており、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	同様の研修が川越市立小学校・中学校10年経験者研修に位置づけられており、本研修内容の具体的な見直しを進めてまいります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上			担当課	担当課評価
細 施 策	⑤大学等進学指導力向上研修の推進			学校管理課	B
施策の内容	市立高等学校の教員を大学進学予備校や民間教育機関等の研修等に派遣し、学習指導力の向上を図るとともに、その成果を校内に波及させる大学等進学指導力向上研修の推進を図ります。				
平成25年度実績	平成25年度は、予備校における教員研修プログラムに、国語科・地理歴史科・英語科の3人の教員が参加しました。その成果を教科会で報告し、授業における指導法の改善、進学補習の工夫等について共通理解を図り、組織的な取組として成果を上げました。大学等の主な合格状況につきましても、埼玉大学、早稲田大学、明治大学等の難関大学に複数合格するなど、成果を上げております。				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	延べ研修参加教員数(人)	16	19	22	
	全教員数に占める割合(%)	36.4	43.2	48.9	
評価の理由	研修に参加した教員数・割合は増加し、概ね順調に進ちよっておりますが、大学等の進学指導力に直接かかわる5教科(国・社・数・理・英)の教員が中心となって参加していることもあり、全教員数に占める割合は40%台にとどまっております。				
改善の方策等	参加教員数の増加を図るなど、今後も積極的に取り組み、教員数・割合の向上を図ります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①経験・職能別研修の充実	教育センター	A	B	
	②管理職等研修の充実	学校管理課	B		
	③奨励研修の充実	教育センター	B		
	④かわごえ異業種体験研修事業の推進	学校管理課	B		
⑤大学等進学指導力向上研修の推進	学校管理課	B			
学識経験者等意見	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の研修参加回数については、取組の成果が出ていると思うため、研修内容に関する質の向上に努めてもらいたい。 ・管理職研修と管理職候補者の研修等については、より一層の充実を図るとともに、女性管理職の登用についても増加するような対策に努めてもらいたい。 				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課	担当課評価
細 施策	①就学支援委員会の充実			教育センター分室 (リベール)	B
施策の内容	小・中学校への就学予定者及び小・中学校に在籍する児童生徒のうち、教育上特別な措置又は支援を必要とする者に対して、一人ひとりのニーズに応じた教育的診断を行い、就学の適正化を図るために、専門医、学識経験者、教育関係者、行政経験者で構成する就学支援委員会の充実を推進していきます。				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 就学相談が必要な児童生徒に対して、諸検査の実施や学校訪問による観察、就学前施設への聞き取りを通して、状況を的確に把握し就学先を判断しました。その際、必要に応じて再度諸検査を実施したり、聞き取りを行ったりして情報収集に努めました。 判断と異なる就学先を希望する保護者に対しては、継続的に相談を続け、保護者が必要とする十分な情報提供を行い、適切な就学先を決定できるよう努めました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	就学支援委員会実施回数(回)	29	29	44	
	臨時の就学相談回数(回)	49	46	15	
	就学相談実施人数(人)	223	243	266	
評価の理由	年々就学相談の実施人数が増加していますが、児童生徒について多くの情報をもとにした適切な就学先の判断や継続的な相談が展開されており、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> 相談人数の増加に対応し、就学支援委員会の実施回数を見直す必要があります。今後、決められた日程の中で就学相談を行うように努めていきます。 就学相談を進めるにあたって、児童生徒の様子を適切に把握できるよう、就学前施設、小・中学校とより一層の連携を図ります。 				

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課	担当課評価
細 施策	②一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実			教育センター分室 (リベール)	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーターを充実させるとともに、自立支援サポーターの活用を図り、通常学級における支援の推進に努めます。 通常の学級に在籍する軽度言語・聴覚障害や発達障害等のある子どもに対して、障害の程度に応じた指導を実施し支援の充実を図ります。 小・中学校に設置している特別支援学級の子ども一人ひとりの障害の特性等に配慮した指導・支援の充実を努めます。 				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 通常の学級に在籍する児童生徒の中で、学習障害(LD)・注意欠陥多動性障害(ADHD)・高機能自閉症等の発達障害があるなどの個別の支援を必要としている児童生徒数は、年々増加しており、各学校からの自立支援サポーターの申請数も増えています。 申請の出された学校には、各学校の実態に応じて週1～2日の範囲で、すべて自立支援サポーターを配置しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	対応した児童数(人)	465	561	805	
	対応した生徒数(人)	30	47	69	
評価の理由	各学校に配置された自立支援サポーターは、該当児童生徒を別室で個別指導を行ったり、クラスの中に入って活動の助言、支援を行ったりなど、児童生徒との信頼関係を築きながら支援しており、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	自立支援サポーターには、特別支援教育支援員の研修会を通して、個別の支援を必要としている児童生徒の実態に応じた支援の方法を身に付けるようにします。教員に対しても、個別の支援と、全体への指導の仕方について研修する機会を設けていきます。				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課	担当課評価
細 施策	③特別支援教育の理解・啓発の推進			教育センター分室 (リベール)	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある児童生徒理解のためのパンフレットを作成し、特別支援教育への理解と啓発の推進を図ります。 ・心のバリアフリーを育む交流及び共同学習等の充実を図り、ノーマライゼーションの理念に基づく教育を推進します。 				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「就学相談セミナー」「発達障害セミナー」に参加した方が、就学相談を希望し適切な就学先を決定することができました。セミナーの案内を保育園や幼稚園に配布するとともに、ホームページで紹介したことにより参加者数が増えました。 ・特別支援学級の授業について関心のある保護者は多く、一人で数校の公開授業を見に行く方がいるなど、毎年約300人が申し込んでいます。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	「就学相談セミナー」「発達障害セミナー」参加者(人)	30	16	57	
	特別支援学級授業公開参観者(人)	308	302	274	
評価の理由	<p>セミナーや特別支援学級の授業公開日を設けることで、市民に対して、特別支援教育を具体的に知り、理解してもらうことができました。また、授業公開を行うことで、教員が積極的に研修を重ね、指導の工夫を図る等、資質の向上につながり、概ね順調に進ちよくしています。</p>				
改善の方策等	<p>障害のある児童生徒の保護者だけでなく、一般市民にも理解を得られるような広報活動を積極的に行います。また、セミナーの内容について、参加する方のニーズに合わせた内容を工夫し、特別支援教育の理解を図ります。</p>				

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課	担当課評価		
細 施策	④市立特別支援学校のセンター的機能の充実			教育センター分室 (リベール)	B		
施策の内容	<p>市立特別支援学校が、保護者に対する相談活動や小・中学校等へのセンター的な役割が担えるよう支援体制の整備を推進します。</p>						
平成25年度実績	<p>市立特別支援学校のセンター的機能に基づき、36件の相談、研修等に対応しました。 (内訳) ・保護者との面接相談 6件 ・特別な配慮が必要な児童生徒についての小・中学校への指導援助 8件 ・小・中学校における配慮が必要な児童生徒への支援に関する研修会の実施 18件 ・その他(ケース会議) 4件</p>						
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25			
	特別支援学校のセンター的機能による対応数(件)	保護者	8	保護者	3	保護者	6
		学校	13	学校	17	学校	8
		研修	25	研修	27	研修	18
		その他	2	その他	2	その他	4
合計		48	合計	49	合計	36	
評価の理由	<p>地域の特別支援教育の推進を支援するセンター的機能を発揮し、保護者、小・中学校への指導援助や研修会の実施ができていることから、概ね順調に進ちよくしています。</p>						
改善の方策等	<p>センター的機能の充実をめざした学校としての組織的な支援の実施に向け、外部との連携作り、教職員の資質の向上、校内体制の整備に努めます。</p>						

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(9) 特別支援教育の充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①就学支援委員会の充実	教育センター分室(リベール)	B	B	B
	②一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実	教育センター分室(リベール)	B		
	③特別支援教育の理解・啓発の推進	教育センター分室(リベール)	B		
	④市立特別支援学校のセンター的機能の充実	教育センター分室(リベール)	B		
学識経験者等	<p>・就学支援については、子どもたちや保護者の意見を最大限尊重しなければならないが、特別支援教育の趣旨をよく理解し、子どもたちが適正に就学できるよう進めてもらいたい。</p> <p>・特別支援教育の理解・啓発の取組については、良い取組であるため市民の理解を得られるような広報活動を積極的に行ってもらいたい。</p>				B

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進	担当課	担当課評価	
細 施 策	①英語指導助手(AET)の配置事業の充実	教育センター	B	
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・国際化の進展に対応し、広い視野と国際感覚を持った児童生徒を育成するため、小・中・市立高等学校及び特別支援学校に配置されている英語指導助手の充実・推進を図ります。 ・小学校での学級担任教員との英語活動や中・高等学校での英語担当教員との共同授業において、英語指導助手をより効果的に活用できる配置を進めていきます。 			
平成25年度実績	現地採用3人、KET2人、派遣契約16人の英語指導助手(AET)を配置しました。 <訪問実績> 英語指導助手(AET)21人 小学校 874日 中学校 1,940日 市立川越高等学校 135日 合計 2,949日			
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25
	配置人数(人)	21	21	21
	1校あたりの年間訪問日数(日)	小24.0 中112.0	小22.0 中92.3	小27.3 中88.2
評価の理由	派遣業者の選定方法をプロポーザル方式に変更し、英語指導助手の質の確保に努めました。各学校への計画的な配置を進めることができ、概ね順調に進ちよくしています。			
改善の方策等	児童生徒の英語力の向上、国際理解教育の推進には、英語指導助手(AET)の人数を段階的に増やしていくとともに、指導力等の質の向上が不可欠です。学校訪問等を通して質の向上を図ります。			

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進	担当課	担当課評価	
細 施 策	②小学校外国語活動の推進	教育センター	B	
施策の内容	小学校5・6年生での外国語活動の時間に、英語ノートや川越市小学校外国語活動研究委員会が作成した資料を活用し、担任教師と英語指導助手が協力して、英語に親しむことのできる授業の充実・推進を図ります。			
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校外国語活動では、英語を通じて言語や文化についての体験的な理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図りました。英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる活動に取り組みました。 ・川越市小学校外国語活動研究委員会において担任が授業ですぐに活用できる指導案例を作成しました。効果的な授業が行われるよう市内各学校に配布し、活用を図りました。 ・小学校外国語活動指導者研修会等を実施し、教職員の指導力向上に努めました。 			
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25
	AETの共同授業による1日平均授業時数(時間)	4.29	4.44	4.40
	小学校第5・6学年1学級当たりの英語指導助手(AET)の年間訪問回数(日)	4.8	4.09	4.85
評価の理由	AETの1日の平均授業時数は前年とほぼ同じであり、積極的に活用が図られている状況にありますので、概ね順調に進ちよくしています。			
改善の方策等	外国語活動のより一層の充実を図るため、AETの積極的な活用を図るとともに、教員の指導力向上を図る研修の充実に努めます。			

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進			担当課	担当課評価
細 施策	③中学校英語教育の充実			教育センター	B
施策の内容	英語指導助手(AET)の効果的な活用、教員の指導力の向上を図り、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能のバランスを取りながら、体験的・実践的な英語教育の充実を推進していきます。				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、英語担当教諭と英語指導助手(AET)との共同授業を通して、言語の使用場面や言語の働きに配慮したコミュニケーション活動を充実させ、コミュニケーション能力の基礎・基本の定着を図れるよう、生徒が主体的に取り組む授業づくりを推進しました。 ・英語科指導力向上研修会等を実施し、指導方法や模擬授業を通して実践的な指導を学ぶことから教員の指導力向上を図りました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	AETの共同授業による1日平均授業時数(時間)	3.39	3.62	3.78	
評価の理由	前年度に比べ、1日あたりの英語指導助手(AET)の平均授業数が増え、各学校での共同授業が円滑に進められたため、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	学習指導要領の目標であるコミュニケーション能力の基礎・基本の定着を図るため、英語指導助手の積極的な活用を各学校に促すとともに教員の指導力向上を図る研修の充実に努めます。				

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進			担当課	担当課評価
細 施策	④国際理解教育の推進			教育センター	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍の児童生徒のうち、特に日本語指導が必要とされる児童生徒に対して、日本語指導ボランティアの派遣を推進していきます。(再掲) ・国際理解教育の充実・推進を図ります。 				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導を必要とする外国籍の児童生徒に495回の日本語指導を実施しました。 ・市立小・中・高・特別支援学校を対象とした国際理解教育研修会を実施しました。 ・市立小学校を2つのブロックに分け、ブロックごとに1校が外国語活動の授業公開を行い、研究協議を行いました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	国際理解教育研修会実施数(回)	3	3	3	
	参加延べ人数(人)	116	109	110	
評価の理由	全市立学校の教職員が国際理解教育に関する研修会に参加し、指導力の向上を図ることができたため、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	国際理解教育推進のために外国語教育だけでなく、さまざまな面で国際理解教育が推進されるような研修会を計画・実施していきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(10) 英語教育・外国語（英語）活動及び国際理解教育の推進			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①英語指導助手(AET)の配置事業の充実	教育センター	B	B	B
	②小学校外国語活動の推進	教育センター	B		
	③中学校英語教育の充実	教育センター	B		
	④国際理解教育の推進	教育センター	B		
学識経験者等 学意	<p>・観光やオリンピックもあり、外国人との交流を図るため、コミュニケーション能力を育成していただきたい。</p> <p>・耳を鍛えることが大事だと思うため、小学校の場合は、例えば、全校一斉ヒアリングマラソン等、朝自習や学級活動が終わった後のわずか10分でも全校一斉に取り組めるようなものを考えてもらいたい。</p> <p>・川越市小学校外国語活動研究委員会というのは、外国語活動のリーダーを養成する意味合いを持っていると思う。今後も時期にあった研究テーマを設定し、研究組織や研究方法の検討を加えたうえで、本市の外国語活動を推進する中心的な役割を担っていただけるように支援をお願いしたい。</p>				B

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(11)情報教育の推進					担当課	担当課評価
細 施策	①ICT教育の推進					教育センター	A
施策の内容	児童生徒がコンピュータやインターネット等のICTを活用し、情報の収集・活用・発信という主体的な学習ができるよう推進します。						
平成25年度実績	市立小・中学校の授業におけるICT(情報通信技術)活用回数は、平成24年度は1学級あたり小学校で34.1回、中学校で40.2回だったのに対し、平成25年度は小学校で43.2回、中学校で51.8回と大きく増加しています。また、デジタル教科書の活用回数は、平成24年度の1校あたり161.5回に対して平成25年度は267.3回となり、こちらも大幅に増加しています。						
指標及び説明	【指標】 授業におけるICT(情報通信技術)活用授業回数			【説明】 市内全小学校のうち1学級当たり1年間にICT(情報通信技術)を活用した授業の実施回数			
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)
			H22	H23	H24	H25	H26
	回	28	32.2	36.8	34.1	43.2	35
評価の理由	市立小・中学校のICT活用回数だけでなく、デジタル教科書の活用回数も大きく増加しており、目標値を上回っていることから、順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	教職員一人ひとりの能力や適性にあった研修会を計画的に実施し、ICT活用の実践例や効果を理解することにより、児童生徒への授業での一層の活用を図ります。						

施策の柱	(11)情報教育の推進					担当課	担当課評価
細 施策	②情報モラル教育の推進					教育センター	B
施策の内容	児童生徒の情報の安全管理や情報モラル等の育成を一層推進するために、情報教育推進委員会、管理職や情報化推進リーダー等を対象にした情報モラル教育の研修を体系的に推進します。						
平成25年度実績	情報モラル教育に関しては、小学校では主に総合的な学習の時間で、中学校では、技術家庭科(技術分野)の年間指導計画に全校位置づけています。なお、小・中学校の道徳教育全体計画への位置づけは、小学校22校、中学校10校と増加しています。また、小・中学校の情報モラルに関する授業の実施回数は、平成24年度は1校あたり23.4回だったのに対し、平成25年度は24.3回と増加しています。						
指標及び説明	【指標】 情報モラルに関する指導ができる教員の割合(文部科学省及び川越市独自調査)			【説明】 市内全中学校の教員のうち情報モラルに関する指導ができる教員の割合			
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)
			H22	H23	H24	H25	H26
	%/校	66	75	76	77	80	80
評価の理由	実績値は昨年度に比べ増えており、情報モラルに関する指導の授業の実施も各校で円滑に進められているため、概ね順調に進ちよくしています。しかし、今後、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を利用する上でのモラルの指導に取り組んでいく必要があります。						
改善の方策等	児童生徒への指導や家庭への情報の提供と周知が図れるよう、経験者研修に意図的に組み込むほか、教育センターで行う情報モラル教育に関する研修会を通して、教職員の情報モラルに関する知識と指導力の一層の向上を図ります。						

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(11)情報教育の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③コンピュータ施設・設備の充実と活用			教育センター	B
施策の内容	小・中学校に設置されている教育用コンピュータの活用を図るため電子黒板やプロジェクター等の周辺機器を更に充実し、コンピュータ施設・設備の充実と活用を図ります。				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校24校のコンピュータ室にある教育用コンピュータ(23校21台、1校41台)と周辺機器、小・中学校全校の職員室にある校務用コンピュータ(各校1台)と周辺機器の入替をしました。 ・情報機器の基本的な操作を身に付けるため、教育センターにおいて、デジタル教科書操作や電子黒板操作に関する研修会を実施しました。また、各教科等の研修会の中でも、デジタル教科書を積極的に活用し、授業の中での活用方法を研修しました。これらの操作に関する研修会の参加者は、平成24年度の122人から平成25年度の142人に増加しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	校務にICTを活用できる小学校教員の割合(%)	96.5	96.0	97.5	
	校務にICTを活用できる中学校教員の割合(%)	94.4	95.5	95.7	
評価の理由	各校ごとに、デジタル教科書や電子黒板の稼働可能数の問題もあり、中学校の実績値は昨年度とほぼ横ばいですが、全体では、ICT活用に積極的に取り組む教職員が増加しており、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	平成26年度は、教育センターコンピュータ室の教育用コンピュータ(41台)と周辺機器の入替を行い、教職員を対象とした研修会等での有効活用を図ります。また、教育の情報化を図れるよう、各市立小・中学校の平成27年度以降の校務用・教育用コンピュータの更新や導入を、計画・実施していきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(11)情報教育の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①ICT教育の推進	教育センター	A	B	
	②情報モラル教育の推進	教育センター	B		
③コンピュータ施設・設備の充実と活用	教育センター	B			
学識経験者意見等	予算の制約もあると思うが、電子黒板やプロジェクターなどICT教育の更なる整備・充実を図ってもらいたい。				B

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(12)読書活動の推進			担当課	担当課評価
細 施策	①読書活動啓発推進事業			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 小学生は「小江戸読書マラソン」の取組、中学生は「小江戸中学生読書手帳」の活用を通して、児童生徒の読書活動を推進します。 家庭には読書活動啓発リーフレットを保護者に配布し、家庭における読書活動の啓発に努めます。 				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 小学生には「小江戸読書マラソン」を配布し、意欲的な読書活動が進められるようにしました。 中学生には「小江戸中学生読書手帳」を配布し、生徒の興味・関心を踏まえ、取り上げる本を見直すなど内容を改善しました。 家庭用には保護者に対して読書活動啓発リーフレットを作成し、配布しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	小学校における年間平均読書冊数(冊)	52.5	48.9	49.3	
	中学生読書手帳に記入された平均読書数(冊)	9.7	10.5	11.3	
評価の理由	「小江戸読書マラソン」「小江戸中学生読書手帳」の活用等により、児童生徒の読書活動の推進は概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書の質と量を含めた学校図書館の充実を図ります。 「小江戸読書マラソン」や「小江戸中学生読書手帳」について、研修会等を通じてより積極的な活用を促すなど、読書活動の推進に取り組みます。 				

施策の柱	(12)読書活動の推進			担当課	担当課評価		
細 施策	②図書館司書による読書活動の推進			中央図書館	A		
施策の内容	図書や図書館への興味・関心を持ってもらうため、図書館司書の学校訪問等を通じ、読書活動の推進に努めます。						
平成25年度実績	全市立小学校3年生の各学級を訪問・招待し、本の紹介を行いました。						
指標及び説明	【指標】 図書館司書による学校訪問等の回数(校数)			【説明】 市立小学校3年生の各学級を対象に本の紹介などを行う			
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)
			H22	H23	H24	H25	
	回	20	32	32	32	32	32
校	20	32	32	32	32	32	
評価の理由	図書館司書などによる全市立小学校訪問や学校招待を行ったことで、児童の読書活動が推進されており、順調に進ちよくしております。						
改善の方策等	引き続き全市立小学校3年生の各学級を訪問・招待し、本の紹介を行います。						

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(12)読書活動の推進						担当課	担当課評価
細 施 策	③図書館から学校への団体貸出の推進						中央図書館	B
施策の内容	児童生徒たちの読書要求に応えるため、市立図書館から学校への団体貸出を推進します。							
平成25年度実績	児童・生徒たちへ「テーマ」に沿った図書を市内小学校24校に延べ82回、5,998冊、中学校6校に延べ10回442冊貸出しました。							
指標及び説明	【指標】 学校への団体貸出数				【説明】 市内小中高校の各学級を対象に100冊を上限に1ヶ月間貸出する冊数			
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)	
			H22	H23	H24	H25	H26	
	冊	5,725	6,886	5,158	5,059	6,440	8,000	
評価の理由	小学校への貸出冊数は5,998冊で平成24年度(4,835冊)と比べて約24%増でした。中学校への貸出冊数は442冊で平成24年度(224冊)と比べて約97%増でした。このため小中学校の合計としては平成24年度と比べて約27%増となり概ね順調に進ちよくしております。							
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高校の先生たちに事業のPRをします。 ・児童生徒たちの読書要求に応える図書を紹介します。 							

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(12)読書活動の推進					
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価	
			細施策	施策の柱		
	①読書活動啓発推進事業	教育指導課	B	B		
	②図書館司書による読書活動の推進	中央図書館	A			
③図書館から学校への団体貸出の推進	中央図書館	B				
学識経験者等意見	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生は、家庭でのゲームの時間よりも最低でも30分、1時間の読書時間を確保してもらいたい。 ・読んだ平均読書冊数もちろん大事だが、読書時間も指標として加えたら目標設定が明確になるため、指標の追加を検討してもらいたい。 ・読書マラソンカードの取組については、冊数を読むのも大切だが、本の感想や考えなど記載する内容についても重視してもらいたい。 					

【方向性】 1 生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①学校保健活動の推進			教育指導課	A
施策の内容	学校・家庭・地域との連携を図りながら、健康診断や学校環境衛生活動等の保健管理の徹底に努めるとともに、歯・口の健康づくりや薬物乱用防止教育、性に関する教育等の保健教育や学校保健活動を推進します。				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における定期健康診断等を実施しました。 ・学校環境衛生検査として飲料水検査、プール水検査、学校環境衛生検査、ホルムアルデヒド及び揮発性物質検査、砂場の細菌検査、ダニ・アレルゲン検査を実施しました。問題があった場合は、指導により改善を図りました。 ・歯・口の健康づくりや性に関する教育等は、学習指導要領に基づき適切に実施しました。 ・新たに薬物乱用防止教育研修会を立ち上げるとともに、全校で薬物乱用防止教室を実施し、健全な心身の育成に向けた取組を行いました。 ・「学校におけるアレルギー疾患のある児童生徒への対応マニュアル」を改訂し、教職員を対象とした食物アレルギー・アナフィラキシー対応研修会を実施しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	薬物乱用防止教室の実施状況	全校実施 (小32 中22 高1 特1)	全校実施 (小32 中22 高1 特1)	全校実施 (小32 中22 高1 特1)	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての検査等を適切に実施し、問題のあった場合は改善を指導し、再検査等で状況を確認しています。 ・全校で児童生徒の発達段階に応じた薬物乱用防止の指導を実施するなど順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季における教室内の室温調査等、新たな課題に取り組み、衛生的で安全な学習環境を維持します。 ・薬物乱用防止教育を更に充実させ、児童生徒の健全な心身の育成に取り組みます。 				

施策の柱	(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	②安全・安心の推進			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、地域の実態に応じた安全教育・安全指導を推進します。 ・登下校等における児童生徒の安全確保のための通学路の安全点検、スクールガード・リーダーの配置、地域ボランティアによる防犯パトロール等、地域及び関係機関等との連携を図り、安全・安心の取組を推進します。 				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールガード・リーダー養成講習会を実施しました。 ・各学校に通学路点検の指示をし、改善要望をとりまとめ、防犯・交通安全課に提出しました。 ・青色回転灯パトロールカーによる市内の巡回を46回実施しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	スクールガード・リーダー養成講習会参加者数(人)	107	114	78	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校全校にスクールガード・リーダーを委嘱しました。 ・関係課との連携により通学路の整備が進められ、概ね順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の交通事故の原因は、歩行時の飛び出しや自転車による運転の問題が多く、重大な事故につながらないよう、交通安全の指導を継続的に実施します。 ・学校からの要望書を受け、関係課と連携することで、危険箇所の把握及び改善をより速やかに進めてまいります。 				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進						担当課	担当課評価
細 施 策	③体力向上の推進						教育指導課	B
施策の内容	「川越市児童生徒体力向上推進委員会」の取組や、近隣の大学との連携による「トップアスリートふれあい事業」の実施を通して、児童生徒の体力向上の推進に取り組みます。							
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「川越市児童生徒体力向上推進委員会」を開催し、「じゃんぷ」「川越市小・中学校新体力テスト一覧」を発行しました。 ・「トップアスリートふれあい事業」により、東洋大学、城西大学と連携し、駅伝部のコーチ・学生を市立小学校6校に派遣し、2,908人の児童が参加しました。 ・市立全小中学校で新体力テストを実施し、結果をまとめ、体力向上の推進を図りました。 							
指標及び説明	【指標】 新体力テスト総合評価(5段階)で3段階以上の割合				【説明】 市内全中学校生徒の新体力テスト総合評価基準表の上位3段階生徒の割合			
指標の推移	単位	現在値 (H21)	実績値				目標値 (H27)	
			H22	H23	H24	H25		H26
	%	82.6	83.2	83.7	85	84.6	90.0	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・「トップアスリートふれあい事業」については、前年度より参加児童が大幅に増加し、第一線で活躍する大学生の走りを体感することにより、児童の走る意欲が高められました。 ・市内全中学校生徒の新体力テスト総合評価基準表の上位3段階生徒の割合は、平成21年度を基準とすると、その後増加傾向にあり、概ね順調に進ちよくしています。 							
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校で実施した新体力テストの分析により、「握力」「立ち幅とび」「ボール投げ」を体力重点課題とし、全体的な体力向上に向け、学校生活や授業の改善に取り組みます。 ・川越市児童生徒体力向上推進委員会により、効果的な指導方法を研究します。また、小中の連携により、9年間を見通した体力向上に取り組みます。 							

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①学校保健活動の推進	教育指導課	A	B	
	②安全・安心の推進	教育指導課	B		
③体力向上の推進	教育指導課	B			
				B	
学識経験者意見等	青色回転灯パトロールカーによる子どもたちの見守り活動については、素晴らしい取組である。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(14)学校の評価充実			担当課	担当課評価
細 施策	①人事評価の充実			学校管理課	B
施策の内容	教職員人事評価システムを有効に活用し、教職員の資質・能力の向上を図るとともに、校長を中心とする学校組織の活性化や人事評価の充実を目指します。				
平成25年度実績	各学校の目標に応じ、年度当初に個々が目標と方策を立てました。面談を重ね、進行、状況を確認し、達成状況や職務遂行の過程で発揮された能力、執務姿勢等を総合的に評価していくことで、教職員の資質・能力の向上が図れました。				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	校長に対する年間面談回数(回)	168	168	167	
	教職員に対する年間面談回数(回)	4,980	4,896	4,584	
評価の理由	「埼玉県市町村立学校職員の人事評価に関する規則」及び「埼玉県市町村立学校職員の人事評価実施要領」に基づき、各学校で設定した目指す学校像と重点目標を踏まえて目標と方策を策定しました。目標の達成状況に基づいた自己評価、評価者評価を通し、教職員の資質・能力の向上に活用され、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	各学校が設定している目指す学校像、重点目標が実現されるよう、年度当初に個々の目標・方策・困難度を設定できるよう指導し、学校組織の活性化に努めます。				

施策の柱	(14)学校の評価充実			担当課	担当課評価
細 施策	②学校評価の充実			学校管理課	B
施策の内容	PDCAサイクルによる学校の自己評価、外部アンケート等の実施、学校関係者評価などを通して、教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と充実を目指します。				
平成25年度実績	各学校が自己評価のために、学校関係評価委員による授業参観、学校観察等を行うとともに、教員による自己評価・外部アンケートを実施しました。自己評価により、学校の課題や改善点を整理し学校運営を改善することができました。				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	「自己評価」におけるA評価の割合(%)	31.4	31.1	32.9	
	「学校関係者評価」におけるA評価の割合(%)	51.9	51.6	55	
評価の理由	各学校が、学校関係者に学校自己評価の評価理由及び改善策を提示し、年度末に学校関係者評価を実施し意見を伺っており、PDCAサイクルによる学校運営が概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	学校評価評価項目を、学校の実態に合わせたものにするために、関係者との連携を更に進め、よりよい学校評価を実現できるよう努めていきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(14) 学校の評価充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①人事評価の充実	学校管理課	B	B	B
	②学校評価の充実	学校管理課	B		
学識経験者等 学意 見	特になし				

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(1)学校施設の整備・充実					担当課	担当課評価
細 施 策	①学校施設の耐震化の推進					教育財務課	A
施策の内容	学校施設は、児童生徒が1日の大半を過ごす学習・生活の場であるとともに、災害発生時には地域住民の避難場所となるなど重要な役割を担っていることから、学校施設の耐震化に向け耐震補強工事を計画的に取り組みます。						
平成25年度実績	平成24年度に全学校施設の耐震化が完了しました。						
指標及び説明	【指標】 学校施設の耐震化の推進				【説明】 市内のすべての公立小中学校の耐震化の割合		
指標の推移	単位	現在値 (H21)	実 績 値				目標値 (H27)
			H22	H23	H24	H25	H26
	%	63	76	93	100	100	100
評価の理由	平成24年度を完了年度とした「川越市小中学校耐震化推進計画」に基づき、全学校施設の耐震化が完了しました。						
改善の方策等	平成24年度に全学校施設の耐震化が完了しました。						

施策の柱	(1)学校施設の整備・充実					担当課	担当課評価
細 施 策	②大規模改造工事等学校施設の整備の推進					教育財務課	A
施策の内容	学校施設設備の老朽化した部分等の緊急性や必要性などを検討し、建物の耐久性の向上を図るため大規模改造工事等計画的な施設・設備の整備を進めていきます。						
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模改造工事を実施(小学校2校、中学校2校) ・大規模改造工事設計業務委託を実施(小学校2校、中学校1校) ・トイレ改修工事を実施(小学校9校、中学校4校) 						
指標及び説明	【指標】 大規模改造工事の推進				【説明】 市内のすべての公立小中学校の大規模改造工事の実施割合		
指標の推移	単位	現在値 (H21)	実 績 値				目標値 (H27)
			H22	H23	H24	H25	H26
	%	44	52	54	55	57	59
評価の理由	平成23年度に策定した「川越市小中学校大規模改造計画」に基づき、大規模改造工事及び大規模改造工事設計業務委託を実施しましたので、順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	学校施設の耐久性の向上、施設の機能改善、教育環境の改善を図るため、「川越市小中学校大規模改造計画」に基づき、大規模改造工事を進めてまいります。						

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱		(1) 学校施設の整備・充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①学校施設の耐震化の推進	教育財務課	A	A	A
	②大規模改造工事等学校施設の整備の推進	教育財務課	A		
学識経験者等 意見	エアコンの設置については、子どものためにも教室で働く教師のためにも是非お願いしたい。				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(2)小・中学校の適正配置と通学区域の弾力化			担当課	担当課評価
細 施 策	①小・中学校の通学区域・規模等の検討			学校管理課	B
施策の内容	今後の川越市立小中学校の在り方検討委員会において、「通学区域に関すること」、「余裕教室の活用に関すること」、「今後の望ましい学校数(学校の統廃合や存続等)に関すること」、「その他」の視点で検討し、将来にわたり適正な小中学校の通学区域・規模等を調査研究していきます。				
平成25年度 実績	今後の川越市立小中学校の在り方検討委員会を開催し、特に児童数(学級数)が増加している南古谷小学校に係る対応策を協議しました。また、今後の市全体としての児童生徒数(学級数)の推移について協議しました。				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	小中学校の在り方検討委員会等開催回数(回)	1	6	3	
	検討内容	指定校変更、区域外就学について	指定校変更、区域外就学許可基準の公表、施設整備	児童数の増加が見込まれる学校への対応策について	
評価の理由	「通学区域に関すること」において指定校変更や区域外通学の内容の見直しと許可基準の公表について検討を進め、平成24年12月から許可基準を市ホームページで公表しています。また、児童数が増加している南古谷小学校への対応策を検討することができたことから、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	児童生徒数の増減に伴う小中学校の在り方については、地域により状況がさまざまであり、それぞれへの対応について引き続き検討することが必要です。今後も、大型集合住宅の建設や大規模地区開発などの動向に注視し、児童生徒数の推移を把握し、他部署と連携しながら今後の小中学校の在り方の指針となるものを検討してまいります。				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(2)小・中学校の適正配置と通学区域の弾力化				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
	①小・中学校の通学区域・規模等の検討	学校管理課	細施策	施策の柱	
			B	B	
学識経験者等 意見	特になし				B

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(3)学校図書館の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①司書教諭・図書整理員の配置			教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・司書教諭・図書整理員の配置により、学校図書館経営の充実に図り、学校図書館を活用した学習指導を一層推進します。 ・司書教諭や図書整理員の研修等を通して読書好きの児童生徒を増やし、子どもの読書活動を活発にするために、司書教諭や図書整理員の研修等を通して、創意工夫をこらした学校図書館の中で、子どもの読書活動が充実するように努めます。 				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・司書教諭、図書整理員とも全校に配置しました。(図書整理員は30人を複数校配置で対応) ・子ども読書活動推進研修会を実施し、司書教諭を中心に児童生徒の読書活動推進のための研修を実施しました。 ・魅力ある学校図書館をつくる図書整理員研修会を年4回実施し、学校図書館の充実に図りました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	学校図書館の貸出数(小学校)(冊)	380,856	417,968	431,081	
	学校図書館の貸出数(中学校)(冊)	29,621	42,407	45,873	
評価の理由	各種研修会を通して司書教諭・図書整理員の職務充実が図られたことで、学校図書館の整備と活用が促進されるとともに、本の貸出冊数も増加し、順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	「全校一斉朝読書」など読書活動の時間を設けたり、教科の指導等で学校図書館の利用を促進し、児童・生徒が本に触れる機会を増やします。				

施策の柱	(3)学校図書館の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	②蔵書の充実			教育指導課	B
施策の内容	学校教育の中で、学校図書館の活用の充実が図れるよう、子どもの要望に応じた図書や豊かな心を育てるための図書を計画的に購入し、蔵書の充実に努めます。				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校に適切に予算を配当し、計画的に図書を購入しました。 ・調べ学習や発展的な学習に活用できる本や児童生徒が興味・関心を寄せている本を計画的に購入し、学校図書館の環境整備を図りました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	図書標準の達成率(小学校)(%)	74.8	78.0	80.6	
	図書標準の達成率(中学校)(%)	85.7	90.8	97.0	
評価の理由	図書の計画的な購入により、図書標準の達成率は向上しており、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	計画的な図書の購入と適切な蔵書の入替により、蔵書の量的確保とともに質的向上が図れるよう整備を進めます。				

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱		(3) 学校図書館の充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①司書教諭・図書整理員の配置	教育指導課	A	A	A
	②蔵書の充実	教育指導課	B		
学識経験者等 学意 見	特になし				

【方向性】

1 一生きる力を育む学校教育の推進

【施策】

2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(4)学校給食の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①食育の推進			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が生涯健康で充実した生活を送るために、学校給食を通じた食に関する指導に加え、教科等と連携した食に関する指導の推進に努めます。 ・効果的な食に関する指導を推進するため、栄養教諭制度等の指導体制の整備を推進するとともに、学校、家庭、地域への啓発、情報提供など、連携した取組を目指します。 				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭において、食に関する指導、意義、役割等について理解を深め、家庭での実践に生かすために「朝食欠食ゼロキャンペーン」を市内小中学校全校で実施しました。 ・「食に関する指導法研修会」を、栄養教諭・学校栄養教員研修会と合同で実施しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	必ず朝食をとる割合(小5)(%)	89.7	89.5	90.3	
	必ず朝食をとる割合(中2)(%)	83.8	83.3	85.5	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の時間や家庭科等の授業で、バランスの良い食事や地産地消の考え方を踏まえた学習が推進されています。 ・各学校において食育における年間指導計画を踏まえた指導を行っており、概ね順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県「早寝、早起き、朝ご飯」の運動を推進します。 ・食育についての研修を引き続き計画的に実施します。 				

施策の柱	(4)学校給食の充実			担当課	担当課評価			
細 施 策	②給食内容の充実			学校給食課	A			
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心でおいしい給食を提供するため、栄養的にバランスの取れた給食を提供し、児童生徒の健康の増進や体力の向上を目指します。 ・学校給食で使用する食材の安全確保に努めるとともに、地場産物の使用拡大に努めます。 							
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食における摂取基準に基づいた学校給食を小学校・中学校で189回実施しました。 ・農産物等の産地証明、残留農薬証明等を求め、給食材料の安全性を確保しました。 ・地産地消の考えから主食米については、川越産米約234t、野菜については88tなど19品目を使用しました。 ・食材について、毎日3品目程度と給食1食分の放射性物質検査を実施しました。 							
指標及び説明	【指標】 学校給食における地場産物の使用拡大			【説明】 学校給食への川越産野菜使用割合				
	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)	
指標の推移	%	19.3	H22 8.8	H23 19.1	H24 19.6	H25 21.4	H26 /	20.0
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産野菜の使用については、天候により左右されます。平成25年度は平成24年度より、安定的に使用できたため、目標値を達成することができ順調に進ちよくしております。 ・食材の安全性確保のため、引き続き放射性物質の検査を実施していきます。 							
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地場産農産物の利用を増やしていくため、地場産物を生かした献立や、収穫期に合わせた献立等、地場産物を積極的に取り入れていきます。 ・食材の安全性確保のため、引き続き放射性物質の検査を実施していきます。 							

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(4)学校給食の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	③学校給食施設の整備			学校給食課	C
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・藤間学校給食センターと吉田学校給食センターは老朽化が進んでいるため、施設の更新を計画的に推進していきます。 ・学校給食の安全性の向上を図るため、調理場のドライ化を推進します。 				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「(仮称)川越市新学校給食センター整備基本計画」を公表しました。 ・PFI手法による事業化を進めるため、新学校給食センターPFIアドバイザー業務委託を開始しました。 ・各学校給食センターの維持管理のため、優先度をつけて修繕を実施しました。 ・調理場のドライ化を推進し、学校給食の安全性の向上を図りました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	改修工事	揚物機等改修工事(今成)、重油タンク設置等工事(藤間)	調理室空調設備改修工事(今成)	男子休憩室冷暖房設備改修工事(今成)、焼物機等改修工事(今成)	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の更新については、アドバイザー業務委託の開始が遅れ、事業内容の検討が十分に進みませんでした。 ・改修工事は少しずつ進んでいます。 ・維持管理のための修繕は、緊急対応の修繕が多く発生したことにより、進捗があまり順調ではありません。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急修繕以外のものは計画的に維持管理のための修繕を実施します。 ・施設の更新については、引き続きアドバイザー業務委託を実施し、PFI事業としての手続きを進めていきます。 				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(4)学校給食の充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
	①食育の推進	教育指導課	細施策	施策の柱	
	②給食内容の充実	学校給食課	B	B	
	③学校給食施設の整備	学校給食課	A		
		C			
学識経験者等意見	保護者の立場からすると給食は非常にありがたいが、アレルギー対策など課題もあるため、一層の充実を図ってほしい。				B

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(5)市立川越高等学校の改革・充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①市立川越高等学校将来構想の検討と推進			市立川越高等学校	B
施策の内容	第二次川越市立川越高等学校将来構想懇話会を設置し、「学科編制の在り方」「学校・学級規模の在り方」「教員の研修の在り方」「中高連携や中高一貫教育の在り方」について検討し、市民の負託に応える魅力ある市立高等学校づくりを推進します。				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度の1年生から導入したすべての学科の35人少人数学級編制及び地域特別選抜を平成25年度も引き続き実施しました。 市立高等学校教員が中学生を教える出前授業や、相互の行事や授業の参観などを通して、中高間の共通理解を深めました。 城南中2年生215人が進路指導として、市立川越高等学校での授業を体験しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	市内生の比率(%)	40.3	37.6	35.1	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> 市内の中学校と市立高等学校の教員が互いの状況を学び教育力の向上に役立ちました。 市立高等学校と城南中、野田中のソフトテニス部が年間を通し合同練習を行い、中学生を指導するなど、概ね順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> 35人学級の編制、地域特別選抜の導入についてその成果を検討します。 市内の中学校と市立高等学校の連携については3年間を一区切りとして進めており、更に推進していきたいと考えております。 体験授業や部活動の合同練習を通じ、各中学校と市立高等学校の教職員の理解を一層深めます。 				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(5)市立川越高等学校の改革・充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
	①市立川越高等学校将来構想の検討と推進	市立川越高等学校	細施策	施策の柱	
			B	B	
学識経験者等 意見	特になし				B

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(6)教育センターの充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①教育センターの整備・開放の充実			教育センター	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育センターの機能を充実させるため、教職員研修体制の整備を図るとともに、市民も活用できる施設となるよう推進します。 ・1階施設や体育館及び運動場は、市民に対して積極的に開放していき、研修施設としての設備は計画的に整備し、教育センター機能の充実を図っていきます。 				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の貸し出しに関して周知され、利用団体が増えています。 ・1階施設は市民の使用を優先しています。体育館及び運動場は、教職員研修と重ならない場合において、市民に対し積極的に貸し出しを行いました。 ・1階施設は、内装制限に係る工事及び排煙設備設置工事を実施しました。 ・休日や夜間の貸し出し時の管理業務を川越市シルバー人材センターに委託して市民が使いやすい環境整備を行いました。 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	1階施設利用者数(人)	944	1,067	2,669	
	体育館及びグラウンドの利用回数と人数(回/人)	231 / 7,612	197 / 9,069	606/20,433	
評価の理由	<p>運動場の貸し出しは、年間を通して毎週土日使用されています。また、体育館は、各種団体が使用している学校施設が利用できない期間(改修工事や卒業式等の学校行事)を中心に、年間を通して多く利用され、順調に進ちよくしています。</p>				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も施設利用に関する情報を公民館だより等に掲載し、地域住民への周知を図ります。 ・サッカーゴールや体育館等の老朽化対策を行う必要があります。 ・教職員研修施設として2・3・4階の改修工事、駐車場の整備等を進めていきます。 				

施策の柱	(6)教育センターの充実			担当課	担当課評価
細 施 策	②家庭・地域との連携研修の充実			教育センター	B
施策の内容	<p>不登校や情報モラル教育の諸問題など、今日的な教育課題解決のために、学校や家庭・地域との相互理解を目的とした家庭・地域と連携した研修の充実を図ります。</p>				
平成25年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象の研修会を2回実施しました。(平成22年度から実施) ①講義「不登校児童生徒への援助のあり方」 <ul style="list-style-type: none"> ・不登校の現状と課題 ・不登校0を目指して ②講義「情報モラル教育の進め方」 <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で取り組む情報モラル指導 ・携帯電話等による諸問題の解決に向けて 				
成果実績	項目名(単位)	H23	H24	H25	
	研修会の開催(回)	2	2	2	
	参加者数(人)	73	84	123	
評価の理由	<p>学校と家庭が課題解決に向けた共通理解を図ることを目的として、今日的な課題を取り上げた研修会を開催しました。参加者からは、参加して良かった、家で携帯電話について子どもと話してみたい、保護者会等で報告したいといった感想があげられ、概ね順調に進ちよくしています。</p>				
改善の方策等	<p>保護者の参加者を増やすために、研修会開催通知とともに講演会のリーフレットを作成及び添付し、各学校を通して保護者への周知を図り、参加を促進します。また、各学校へ研修内容を周知し、活用を促します。</p>				

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱		(6) 教育センターの充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①教育センターの整備・開放の充実	教育センター	A	A	A
	②家庭・地域との連携研修の充実	教育センター	B		
学識経験者等 学意 見	<p>家庭・地域との連携研修については、積極的に保護者を対象としており、時期にあったテーマで実施しているため大変評価できるが、開催日程など参加者を増やす工夫をしながら、内容の充実を図ってほしい。</p>				